

【水の里の旅コンテスト2017 応募企画】

【一般部門】

マイクリング・プロジェクト×(株)イー・エージェンシー×米原市

びわ湖の素・米原 日本遺産と水源の旅
清らかな日本に出会う米原サイクリング

観光地域：滋賀県米原市

【日程】	1泊2日		
【実施時期】	春・夏・秋		
【催行人員】	2名（最少催行人員：1名）	【お勧めする旅行者層】	サイクリスト（初心者含む。） 訪日外国人観光客
【旅行代金】	20,000円 (大人1名)	【内 訳】	
		レンタサイクル・ガイド料 10,000円 (レンタサイクル 土日祝レギュラープラン(クロスバイク) 6,500円) (ガイド 3,500円) 昼食費 1日目3,000円(本陣 樋口山)、2日目 1,000円(伊吹そば 伊吹野) 宿泊費 1泊2食付き 6,000円(民宿 船作：滋賀県米原市甲津原 465)	
【企画趣旨（伝えたいポイント及び旅行者が満足するポイント）】			
<p>米原市には、日本百名山のひとつ伊吹山とその南には霊仙山がそびえ、麓には、これらの山々を水源とした湧水が湧き出し、その水は姉川や天野川となって地域に恵みをもたらしながら、やがて母なる琵琶湖へと注がれます。米原は、古来から引き継がれた美しい自然や文化・伝統が生き続ける水源の里であり、いわば“びわ湖の素”。この企画は、びわ湖の素・米原と市内の日本遺産を巡る清らかなサイクリングツアーです。</p> <p>1日目は、新幹線直結の米原駅サイクルステーションを出発し、琵琶湖の源流をたどるべく、霊仙山が育む1つ目の日本遺産 醒井へ。平成の名水百選「居醒の清水」、珍しい水中藻「梅花藻」や中山道醒井宿の風情ある街並みに心を癒された後は、琵琶湖の宝石ともいわれるピワマスの昼食。午後は、特別天然記念物 長岡のゲンジボタルが住む天野川を遡り、滋賀県最高峰の伊吹山に向かいます。かつてセメント工場の専用線路として使われた「伊吹せんろみち」から眺める伊吹山はロケーション最高。姉川の源流にある山村集落で2つ目の日本遺産「東草野の山村景観」を見学し、1日目を終えます。</p> <p>2日目は、琵琶湖の源流から母なる琵琶湖を辿るコース。絶景「五色の滝」と米原のマチュピチュ「曲谷の石切り場跡」へトレッキングした後、清らかな米原の水を使った伊吹そばの昼食。その後は、3つ目の日本遺産「伊吹西麓地域」の三島池と2.5万年前に成立したといわれる山室湿原へ。古代の息吹を感じた後は、一路琵琶湖へ向かい、水的生活文化である自噴井戸「かなぼう」、琵琶湖のほとりにある米原の夫婦岩「烏帽子岩」などを巡り、ゴールの米原サイクルステーションに向かいます。</p> <p>伊吹山や霊仙山からはじまる一滴の水が琵琶湖をつくり、多くの人の生活を支えている。そんな上流と下流のつながりを日本遺産とともに体感し、“水資源の大切さをおのずと認識できるツアー”を意識して企画しました。また、古き良き、清らかな日本に出会える旅にすることで外国人観光客の誘客も図ります。</p>			
<p>(満足ポイント)</p> <p>①交通利便性に富んだまち米原だから東京からでも1泊2日OK！ 新幹線が停車する米原駅直結のレンタサイクルで“あっという間にサイクリングツアー”</p> <p>②地元の市民ボランティアが全ルートを同行。地元だからこそ知っている“水を巡るディープなびわ湖の素・米原”のガイド付き</p> <p>③母なる湖 琵琶湖とその源流を辿ることで体感できる“水資源の大切さを再認識するツアー”</p>			
【安全確保のための配慮】		【旅行者の満足感を高めるための工夫、快い旅行にするための配慮】	
市民ボランティアでありながら数々のサイクリングツアーを催行しているマイクリング・プロジェクトがガイドとして全ルートをサポート。道路も危険な個所が少ないルートを巡ります。		①マイクリング・プロジェクトが全ルートをサポートするため、ご希望によりそば打ち体験や木彫り体験に変更するなど、旅行者のニーズに合わせたルート変更が可能です。また、時期が合えば、4つ目の日本遺産「朝日豊年太鼓踊」や「米原曳山祭」なども見学できます。 ②レンタサイクル受付で米原市の水「米原水」と水源の里まいばらの水文化がわかるガイドブック「スローウォーターな暮らし」をプレゼント。	

【企画協力（後援）機関・団体名等】	【主な役割】	【企画協力（後援）機関・団体名等】	【主な役割】
①マイクリング・プロジェクト	ガイド	⑤米原市	米原水、ガイドブック「スローウォーターな暮らし」の提供
②NPO 法人 五環生活	レンタサイクル、走行指導	⑥	
③(株)イー・エージェンシー	インバウンド向けPRと誘客	⑦	
④日本遺産米原地域協議会	情報提供、資料提供	⑧	

【特記事項】	<ul style="list-style-type: none"> ・地元ガイドだからこそ！旅行客の体力やニーズに合わせたルートのアレンジができます。 ・今回のツアールートは、ジャパンエコトラック認定ルート「びわ湖・伊吹山」の一部をアレンジしています。 ・市民、NPO、民間企業、行政が協働してプランニングしました。
【催行実績】	有り

【 行 程 表 】

1日目	10:00 米原駅サイクルステーション → 蓮華寺 → 醒井地域（日本遺産）→ 居醒の清水（平成の名水百選）→ 12:00 本陣 樋口山（昼食）→ 長岡の天野川 → 伊吹せんろみち → 伊吹薬草の里文化センター → 東草野の山 15:00 17:00 村景観（日本遺産） → 民宿 船作（宿泊）
2日目	9:00 民宿 船作 → 五色の滝 → 曲谷の石切り場跡 → 出雲井 → 伊吹そば 伊吹野（昼食）→ 小田分水 → 12:00 15:00 三島池（10月上旬は朝日豊年太鼓踊（日本遺産）の見学） → 山室湿原 → ローザンベリー多和田 → 18:00 世継のかなぼう → 朝妻湊 → 烏帽子岩 → 入江干拓 → 米原駅サイクルステーション

【 主な観光ポイント（観光地・観光箇所の歴史、由来、土産品など） 】

【ポイント1】	【ポイント2】	【ポイント3】
---------	---------	---------



【米原駅サイクルステーション】
全国初新幹線駅直結のレンタサイクル拠点。この場所は、江戸時代、中山道から米原道を経て京へ物資を運んでいた米原湊の跡地でもあり、米原市内をはじめビワイチ、近江鉄道サイクルトレインなど多くのサイクリングの出発点となっている。米原駅西口には、ビワイチの拠点となるカフェもあり、スタート前に心の準備をすることができる。

【蓮華寺】
中山道・番場宿のお寺。聖徳太子が創建し、のちに一向上人が再興したといわれている。長谷川伸作の「瞼の母」の舞台としても有名。蓮華寺にはかつて雨乞いの場所であった「蛇池」があり、昔、キコリが大蛇に、持っていた墨をつけて手拭いに映して持ち帰り、長持ちに入れて保管し、干ばつ時に長持ちの蓋を少し開けると雨が降ったと伝えられている。

【醒井宿】★日本遺産
中山道 61 番目の宿場町。地蔵川の流れて沿って、今も風情ある街並みが続いている。全国にも珍しく、宿場をきりもりした施設「問屋場」が昔のままの姿で残っており、往来の賑わいを伝えている。醒井の地名の由来となった地蔵川の源流「居醒の清水」は、太古、ヤマトタケルが体毒を洗い流したといわれ、今も霊水、名水として湧出し、人々の生活を潤している。

<p align="center">【ポイント4】</p> 	<p align="center">【ポイント5】</p> 	<p align="center">【ポイント6】</p> 
<p>【本陣 樋口山】 中山道醒井宿の本陣跡に構えて百余年になる老舗の虹鱒を中心とした日本料理のお店。醒井の名水で育った虹鱒は川魚特有の臭みなどの癖がなく、新鮮で極上の虹鱒を代々伝わる調理方法を用いているいろいろな味わいを楽しむことができる。事前に予約をすれば、琵琶湖の宝石 ビワマス料理も味わうことができる。</p>	<p>【ビワマス】 琵琶湖の固有種で一般的なサケと同じように川で生まれたあと、再び生まれた川に戻って産卵するという習性があるが、ビワマスは海に下ることはなく、琵琶湖に下り、生まれた川に戻る。近年漁獲量が激減し、貴重な魚となっている。上品な脂がのり、淡水魚の中で最もおいしいといわれ「琵琶湖の宝石」とも呼ばれている。</p>	<p>【長岡のゲンジボタル】 天野川にあるゲンジボタルの大発生地。古くからゲンジボタルの観光名所となっていたが、昭和39年頃には川の氾濫、護岸工事により絶滅の危機に陥った。そこで地元長岡が「天野川ゲンジボタルを守る会」を立ち上げ保護活動を続けた結果、現在の美しい光景がよみがえっている。「長岡のゲンジボタル及びその発生地」としてゲンジボタルと長岡地域が国の特別天然記念物に指定されている。</p>
<p align="center">【ポイント7】</p> 	<p align="center">【ポイント8】</p> 	<p align="center">【ポイント9】★日本遺産</p> 
<p>【伊吹せんろみち】 良質な石灰岩の産地としても知られた伊吹山。昭和27年に鉱山として開山し、同時にセメント工場専用鉄道が作られた。総延長3.7kmの路線は平成11年に廃路され、平成19年にサイクリングロード・ハイキングコースとしてリニューアルした。線路の名残を感じながら雄大な伊吹山を望むロケーションは最高で、人気のスポットとなっている。</p>	<p>【伊吹薬草の里文化センター】 伊吹山は古来から薬草の宝庫として知られ、織田信長も伊吹山中に薬草園を開いたとされている。このセンターは、伊吹山を借景に「薬草」をテーマにした複合施設で、薬草風呂、薬草園のほか、公民館、文化ホールなどが併設されている。旅の疲れは、薬草のお風呂と奥伊吹の花崗岩で作った岩風呂で癒すことができる。</p>	<p>【東草野の山村景観】 豪雪地である東草野は、甲津原、曲谷、甲賀、吉槻の4集落からなる重要な文化的景観。茅葺きの母屋や広い軒下空間を持つカイダレと呼ばれる家の作りが残り、火災から家を守るおまじないとして屋根には「水」の文字が書かれている。湧水を引き込んだ水路など水をはじめ、風土と共にある人々の暮らしを感じることができる。</p>
<p align="center">【ポイント10】</p> 	<p align="center">【ポイント11】</p> 	<p align="center">【ポイント12】</p> 
<p>【民宿 船作】 採れたての郷土料理が人気の民宿。部屋から鈴鹿山脈が望める絶好のロケーションで、冬はこたつでほっこり、夏はさわやかな風と共に過ごせる。自慢の料理は季節ごとに異なり、自家製の甲津原味噌と鶏野菜味噌をブレンドしたジビエの味噌なべや、釣りたてのイワナのお造りが登場する。</p>	<p>【五色の滝】 米原市曲谷の北東、越し又川を上流へと沢づたいに登った先にある滝で、一の滝、二の滝、三の滝、四の滝と呼ばれる小さな滝が順にあり、最後に大きな花崗岩から滑らかに流れ落ちる壮大な五色の滝が姿を現す。春は新緑、秋は紅葉と、自然美と滝の調和を楽しむことができる絶景スポット。</p>	<p>【曲谷の石切り場跡】 米原市曲谷には数多くの滝があり、滝の周辺では、良質な花崗岩が産出され、中世前より石工業が営まれてきた。作業小屋や石切り場の跡が残され、周辺には石を割るための矢穴のある石や未成品の石臼があり、今もその面影を残している。その様子から「米原のマチュピチュ」ともいわれている。</p>

【ポイント13】	【ポイント14】	【ポイント15】
		
<p>【出雲井（いずもゆ）】 姉川の上流域や伊吹山麓は湧水が豊富で古くから農業水利として利用されてきた。渇水期には農業水利を巡る争いが絶えず、古くから数々の井堰が築かれてきた。1953年には、現在の出雲井（姉川合同井堰）が完成し、水を受益面積に応じて分ける分水施設を経て各集落の用水路へと送られ、下流域まで広く姉川の恩恵が受けられるようになった。</p>	<p>【伊吹そば 伊吹野】 伊吹山麓は日本のそば栽培発祥の地といわれ、1300年にわたりそばの栽培が続いている。昼夜の気温差が大きく、そばの栽培に最も適した高冷地型環境の中、無農薬で、すくすくと育った最良質のそばを自家製粉し、そば職人が伊吹山麓の霊水で心を込めて打った、「打ちたて、湯がきたて」の本格そばを味わうことができる。</p>	<p>【小田分水（やないだぶんすい）】 出雲井からの水を各集落の用水路へと分水する施設で、現在の施設は昭和28年に完成し、この分水を利用し、3つの地域に姉川の水の恵みを届けている。歴史は古く、中世に大原庄16カ村が創設したといわれ、この分水が不十分であったため水を巡る争いが絶えなかったともいわれている。水の貴重さを今に伝える大切な農業水利施設である。</p>
<p>【ポイント16】★日本遺産</p>	<p>【ポイント17】</p>	<p>【ポイント18】</p>
<p>画像提供：北びわこふるさと観光公社</p> 		
<p>【三島池】 周囲が約800mのため池で、今から700年ほど前に農業用水池として作られた。マガモ、オシドリなど多くの生物が保護されており、「マガモの自然繁殖の南限地」として県の天然記念物に指定されている。また、桜や紅葉の名所として知られ、三島池の水面に影を落とす伊吹山「逆さ伊吹」は絶景。平成22年には「ため池百選」にも選ばれている。</p>	<p>【山室湿原】 約2.5万年前の姿をそのままに残す貴重な湿原。水源は湧水であると考えられ、枯れたことがないといわれている。みつくり谷と呼ばれる谷あいには、生きた化石といわれるハッチョウトンボやトキソウ、サギソウなどが生息し、豊かな生態系が形成され、古代を今に伝える貴重な自然が残されている。</p>	<p>【ローザンベリー多和田】 「五感で感じる自然の癒し」をテーマとした観光農園施設。自然に囲まれた園内では、イングリッシュガーデンの散策、季節の収穫体験、羊毛クラフト体験、羊の餌やりなど様々な体験ができる。園内には、身体に優しい野菜中心のバイキングレストラン、オリジナルの手作りジャムやワインを販売するショップもある。</p>
<p>【ポイント19】</p>	<p>【ポイント20】</p>	<p>【ポイント21】</p>
		
<p>【世継のかなぼう】 「かなぼう」とは、水の湧き出ている泉とその洗い場を総称した名称で、湧き出る水は「カナケ」と呼ばれる。年中一定の水温を保ち、上水道ができるまでは生活用水全般に使われていた。個人、共同利用、田畑の灌水用などがあり、共同利用のものは井戸仲間と呼ばれるグループが維持管理し、年末年始には鏡餅とお神酒を供える習慣が今も残る。</p>	<p>【朝妻湊】 朝妻湊は古代から東海・北陸地方の人の行き来や荷物の運搬など、湖上交通の要港として発展してきた。歴史上でも秀吉が京の大仏建立の際、尾張や美濃から木材を運搬し、木曾義仲の後続部隊の出陣時にも朝妻湊を経て戦地に向かうなど重要な役割を果たしてきた。現在は朝妻湊跡の石碑、構内に敷き詰められた石畳が残っている。</p>	<p>【烏帽子岩】 琵琶湖を一望する景勝地の浜辺に浮かぶ4m四方の大きな岩。この岩を北側から見ると、烏帽子に見えることから「烏帽子岩」と呼ばれ、親しまれている。烏帽子岩は、男岩と女岩の2つの岩が一つに重なっていることから、「縁結びの岩」ともいわれ、男女の恋が成就する言い伝えもある。</p>

【ポイント 22】



【入江干拓】

琵琶湖岸の入江のあたりは、かつて周囲 80 km、面積 300ha に及ぶ琵琶湖第二の大きさを誇る入江内湖があった。入江内湖は、戦時の食糧自給と増産を目的に農業用地として干拓され、1949 年には現在の入江干拓が完成した。入江内湖内には入江内湖遺跡があり、平成 16 年には縄文時代前期（約 5500 年前）の最古級の丸木船なども見つかった。

【ポイント 23】



【朝日豊年太鼓踊】★日本遺産

八幡神社の境内でつま折笠に緋こて、カルサン袴の踊り手たちが胸の太鼓を打ちながら雨乞い踊りを踊る。今から 1300 年前、大原郷を開拓した際に始まったとされ、五穀豊穡を祈願して神社に奉納する。伝承では、羽柴秀吉が、賤ヶ岳の戦いで勝利した際、陣鉦、陣太鼓を打ち鳴らしたところ、大雨が降りだしたので、それ以来、鉦や太鼓を用いるようになったとある。国の無形民俗文化財にも指定されている。

【ポイント 24】



【米原曳山祭り】

米原曳山まつりは、湯谷神社の祭礼で、長浜の曳山まつりを見習って江戸時代の後期に始まったといわれている。毎年 10 月初めに行われ、界限には華やかなシャギリの音が鳴り響き、豪華な曳山が巡行される。旭山組、松翁山組、壽山組の 3 組に分かれており、3 輦の曳山の舞台では、それぞれ稽古を重ねた子供たちが子供歌舞伎を熱演し、多くの観客を魅了している。

【ポイント 25】



【梅花藻】

居醒の清水を源流とする地藏川に可憐に咲くキンポウゲ科の水生多年草。水温が年間 14℃前後の清流にしか育たないとされ、7 月から 8 月にかけて梅の花に似た白い花が咲き、川の中を涼しげにゆらぐ。7 月から 8 月には夜間ライトアップが行われ、昼間とは違った幻想的な雰囲気を楽しむことができる。